

第 19 回根研究集会に参加して

朝比奈 雅 志

筑波大学生物科学研究科

第 19 回根研究集会が 2003 年 11 月 15 日に、茨城県つくば市の筑波大学・総合研究棟 A にて開催されました。今回私は、発表者としてだけでなく、研究集会のスタッフの一員として参加させていただくことができました。

つくば市は交通の便があまりよくないため、参加者の皆様にはご不便をおかけしたと思いますが、全国各地からお集まりいただき、興味深い発表、議論が活発に行われました。参加者の皆様にとって、有意義な一日となっていたことと思います。

私がこの研究会に参加するのは今回で二回目ですが、以前よりも参加されている方の研究分野が広がっているように感じました。一概に「基礎科学分野から応用分野の研究まで」といった単純なものではなく、「根」という植物の一器官を対象に行われている研究の幅の広さに、驚きを覚えました。

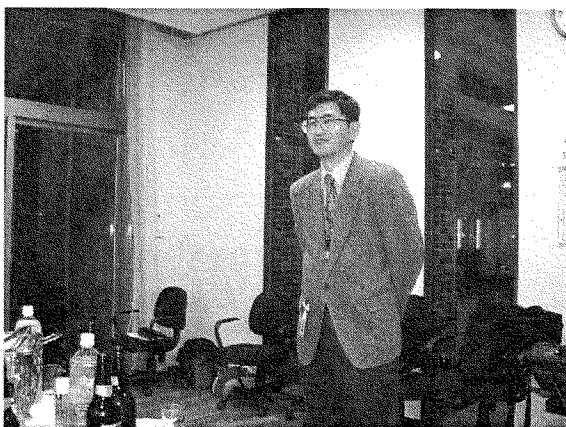
特別講演では、受賞された 4 名の方が御講演をなさいました。受賞者のお一人である香川大学の馬建峰先生は、受賞対象となられた著書のご紹介を、研究を始めるに当たってのエピソードを交えてお話しくださいました。私自身、ケイ素研究に関してほとんど知識がなかったのです

が、日本においてケイ素に関する研究が古くから盛んに行われてきたこと、その理由が日本の風土に密接に関係していること、農業生産上ばかりでなく生理学的にも非常に興味深い元素であることを理解することができました。また、日本で行われてきたケイ素研究の成果の多くが日本語で執筆されていたことから、日本の研究を世界に紹介するために執筆に取り組みされたといったことをお話しくださいました。いずれの受賞者の方も大変興味深い研究をなされており、今回の発表時間では少し物足りないと感じました。

口頭発表は 16 演題、ポスターセッションでは 21 演題の発表がありました。

懇親会は、ポスターセッションに引き続き、同じ会場で行われました。ポスターもそのまま掲示されていたので、ポスターの前にビールを手にした人の輪ができ、ディスカッションに花が咲いていました。

翌日には、筑波大学・遺伝子実験センターにて、「根研究若手の会（通称・後の会）」が開催されました。この会は、以前からも根研究集会に参加した学生・若手研究者の有志を中心に、研究会終了後に開催されてきたもので、今回は



阿部 淳 氏 (学術功労賞)



馬 建峰 氏 (学術特別賞)

2003 年 11 月 20 日受付

*連絡先 〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学生物科学系植物生理学研究室
Fax: 029-853-4579 E-mail: asahina@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

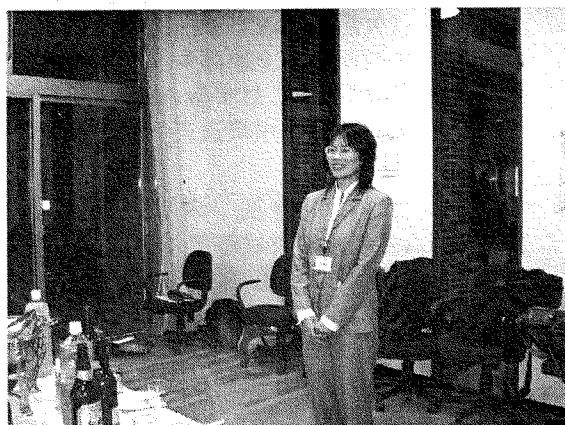
筑波大学・小田篤氏の企画によって行われました。若手の会では、私を含めて筑波大から3名が発表させていただきこととなり、遺伝子解析技術や、筑波大で実際に行われている研究の一例を紹介させていただきました。また、名古屋大学・関谷信人氏は「作物学の進むべき方向」との内容で発表され、現在の作物学研究の問題点、我々のような基礎科学研究に携わっているものが見落としがちな観点を、実例を挙げて紹介していただき、感銘を受けました。本研究会

の発表内容が、作物・育種学の分野から分子生物学的なものにまで多様になってきたことから、このようにお互いの研究分野を紹介しあう勉強会が学生を中心に行われていることは、非常に意味のあることであると考えます。ご興味をもたれた方は、是非ご参加することをお勧めいたします。

最後になりましたが、今後も根研究会および根研究若手の会がますます盛り上がっていくことを、心から御期待いたします。



宮本 直子 氏 (学術奨励賞)



中野 有加 氏 (学術奨励賞)